

施工22施工法・用語

- 1 「遣方」とは、建築に先立って、柱心等の基準となる水平位置を示すために設ける仮設物をいう。
- 2 JIS規格1級の鋼製巻尺は、50m巻尺では±5mm程度の誤差を生じる可能性があるため、同じ精度を有する巻尺を3本用意して、工事着手前にテープ合せを行い、1本は基準巻尺として保管した。
- 3 バックホウは、掘削作業に用いる。
- 4 改良積上げ張り工法とは、下地モルタル面にモルタルを4～6mm程度塗り付け、タイル裏面に張付けモルタルを3～4mm程度全面に載せて、平らにならしたものを張り付ける工法である。
- 5 タイプフレームとは、折板屋根において、折板を受けた梁に固定するための部品である。
- 6 杭地業工事に、オールケーシング(ベント)工法を用いた。
- 7 中掘り工法とは、既製コンクリート杭の中空部にオーガー等挿入し、杭先端地盤を掘削しながら杭中空部から排土し、杭を設置する工法である。
- 8 改良圧着張り工法とは、張付けモルタルを下地面に塗り、モルタルが軟らかいうちにタイル張り用振動工具を用いてタイルに振動を与え、埋め込むように張り付ける工法である。
- 9 クレーターとは、溶接の止端に沿って母材が掘られて、溶着金属が満たされずに溝となって残る溶接部の欠陥である。
- 10 チョーキングとは、塗膜が熱、紫外線、風雨等によって劣化し、塗膜の表面から粉化していく現象である。
- 11 イナズマプレートとは、ロッキング構法によるALCパネル工事において、定規アングルにALCパネルを取り付けるための金物である。
- 12 「縄張り」とは、建築物の位置を決定するため、建築物の形のとおり縄等を張ること、又は消石灰粉等で線を引くことをいう。
- 13 鉄筋工事に、リチャージ工法を用いた。
- 14 ポストテンション方式とは、プレストレストコンクリートにおいて、コンクリートが硬化した後に、あらかじめ配置しておいたPC鋼材、又は硬化後に挿入したPC鋼材を緊張する方式である。
- 15 MCR工法とは、外壁タイル張りのモルタル下地の剥離防止のために、コンクリート型枠に専用のシートを取り付け、コンクリートを打ち込むことによりコンクリート表面に凹凸を設ける工法である。
- 16 「サンドドレン」とは、砂中を上向きに流れる水流圧力によって、砂粒がかきまわされ、湧き上がる現象である。
- 17 トルクレンチは、高力ボルトの締付けに用いる。
- 18 3階建の建築物の鉄骨建方に、トラッククレーンを使用した。
- 19 コンシステンシーとは、材料分離を生じることなく、運搬、打込み、締固め、仕上げ等の作業が容易にできる程度を表すフレッシュコンクリートの性質をいう。
- 20 場所打ち鉄筋コンクリート山留め壁とは、地中に掘削したトレンチに鉄筋かごを入れ、コンクリートを打って造成山留め壁した山留め壁である。
- 21 ホルムアルデヒドは、頭痛、嘔吐等をともなう「シックビル症候群」の原因物質の一つとされている。
- 22 ワーキングジョイントとは、鉄筋コンクリート工事において、先に打ち込まれたコンクリートの凝結がある程度進み、後から打ち込まれたコンクリートと一体にならないことによりできる打継ぎ目を指す。
- 23 「盤ぶくれ」とは、砂地盤が水と砂の混合した液体性状になり、砂全体が沸騰状に根切り内に吹き上げる現象をいう。
- 24 測量区域内の見通しが悪い敷地の平板測量については、任意の地点に平板を備え付け、アリダードを用いて放射状に方向を求め、直接距離を測定する放射法を採用した。
- 25 スクレーパーは、鉄筋の切断に用いる。

施工22施工法・用語

- 1 ○ 「遣方」とは、建築に先立って、柱心等の基準となる水平位置を示すために設ける仮設物をいう。
- 2 ○ JIS規格1級の鋼製巻尺は、50m巻尺では±5mm程度の誤差を生じる可能性があるため、同じ精度を有する巻尺を3本用意して、工事着手前にテープ合せを行い、1本は基準巻尺として保管しておく。
- 3 ○ バックホウは、機械の接地面より下方の掘削、硬い土質の掘削及び溝掘りに適し、水中掘削も可能な施工機械である。
- 4 × 改良積上げ張り工法とは、下地モルタル塗りを中塗りまで行い、木ごとで仕上げた下地に、タイル裏面に張付けモルタルを平らに塗り付けたものを押し付け、木づち等で十分たたき締めて張付ける工法である。設問は改良圧着張り工法の説明である。
- 5 ○ タイフレームとは、折板屋根において、折板を受けた梁に固定するための部品である。
- 6 ○ オールケーシング工法は、場所打ちコンクリート杭の工法で、掘削全長にケーシングハンマーグラフ掘削を用いる。
- 7 ○ 中掘り工法とは、既製コンクリート杭の中空部にオーガー等挿入し、杭先端地盤を掘削しながら杭中空部から排土し、杭を設置する工法である。
- 8 × 改良圧着張り工法とは、張付けモルタルを下地面に塗り込み、モルタルが軟らかいうちにタイル裏面に同じモルタルを塗り、タイルを張るという工法である。
- 9 × クレーターとは、溶接ビードの最終の部分(終端)にできるくぼみのことである。設問は、アンダーカットのことである。
- 10 ○ チョーキングとは、塗膜が熱、紫外線、風雨等によって劣化し、塗膜の表面から粉化していく現象である。
- 11 ○ イナズマプレートは、ロックング構法によるALCパネル工事において、定規アングルにALCパネルを取り付けるための金物である。
- 12 ○ 「縄張り」とは、建築物の位置を決定するため、建築物の形のとおり縄等を張ること、又は消石灰粉等で線を引くことをいう。
- 13 × リチャージ工法とは、地盤沈下防止の地下水処理工法である。
- 14 ○ ポストテンション方式とは、プレストレストコンクリートにおいて、コンクリートが硬化した後に、あらかじめ配置しておいたPC鋼材、又は硬化後に挿入したPC鋼材を緊張する方式である。
- 15 ○ MCR工法とは、外壁タイル張りのモルタル下地の剥離防止のために、コンクリート型枠に専用のシートを取り付け、コンクリートを打ち込むことによりコンクリート表面に凹凸を設ける工法である。
- 16 × 「サンドドレン」は地盤改良工事における強制圧密工法に使用される砂杭のことで、設問は砂質地盤のポイリング現象の説明である。
- 17 ○ 高力ボルトの締付けにトルクレンチが使用される。
- 18 ○ トラッククレーンは、全旋回型のクレーンをトラックシャーシの上に装備した移動式クレーンである。鉄骨の建方などに使用される。
- 19 × コンシステンシーとは、主として水量によって左右されるフレッシュコンクリート、モルタル、セメントペーストの流動性の程度のことをいう。設問は、ワーカビリティの説明である。
- 20 ○ 場所打ち鉄筋コンクリート山留め壁とは、地中に掘削したトレンチに鉄筋かごを入れ、コンクリートを打って造成山留め壁した山留め壁である。
- 21 ○ ホルムアルデヒドは、頭痛、嘔吐等をももなう「シックビル症候群」の原因物質の一つとされている。
- 22 × 先に打ち込まれたコンクリートの凝結がある程度進み、後から打ち込まれたコンクリートと一体にならないことによりできる打継ぎ目はコールドジョイントという
- 23 × 「盤ぶくれ」は「ヒービング」ともよばれ、軟弱な粘性土地盤を掘削した場合に、せん断滑り破壊によって掘削底面が盛り上がる現象である。
- 24 × 放射法による平板測量は、直接距離が測定できる見通しのよい敷地の測量に適する。
- 25 × スクレーパーは地盤の掘削や集積、運搬などに使用される土木工事用機械である。